

令和元年6月18日現在

機関番号：32689

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2015～2018

課題番号：15K02362

研究課題名(和文) 異文化空間としてのトランスパシフィック アジア系アメリカ文化の太平洋横断的展開

研究課題名(英文) The Transpacific as the Space of the Other Culture: Unfurling Asian American Culture Across the Pacific

研究代表者

麻生 享志 (ASO, Takashi)

早稲田大学・国際学院・教授

研究者番号：80286434

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究においては、アメリカ西岸・東南アジア地区を中心に展開するアジア系アメリカ文化・文学の複合的展開を文化史的視点から検証した。とくにYunte Huangが「トランスパシフィック」と呼ぶ地政学的時空間に注目し、異なる歴史的言説や社会・政治思想が文化の生成に与える影響を考察した。主たる研究対象は日系移民3世およびベトナム系難民1.5世と2世。カリフォルニア州立大学バークレー校等図書館での資料調査と、アメリカ合衆国、ベトナムにおける現地調査に加え、作家・芸術家との意見交換等を実施した。研究成果については、学会での研究発表や学術誌における論文発表、また作品の翻訳等を行うなど速やかな公表に努めた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

研究成果については、日本英文学会、日本アメリカ学会、アジア系アメリカ文学研究会等主要学会でのシンポジウム等で逐次発表したのに加え、AALA Journal、The Japanese Journal of American Studies等の研究誌で公表してきた。また、ベトナム系難民作家 Lan Cao の小説『蓮と嵐』を翻訳出版するなど、アジア系アメリカ人作家・芸術家の作品を紹介した。これらは日本における多文化・異文化の受容ならびにその研究に新たな方向性を示した。加えてベトナム系難民の文化・文学に焦点を当てることで、批判的難民研究という新分野へ研究の視線を広げる役目を果たした。

研究成果の概要(英文)：In this research, I have worked on a topic of transpacific studies of Asian American culture and literature across the Pacific Ocean, especially on the west coast of the United States and in Southeast Asia. With Yunte Huang's notion of the "transpacific" as a geo-political space and time in mind, I have conducted research at UC libraries and interviewed Asian American artists and writers in America and Vietnam. In particular I focused on the ways in which Asian Americans have created art works in a historical context in which a variety of socio-political discourses are exchanged. My main foci were the 3rd generation of Japanese Americans and the 1.5 and 2nd generations of Vietnamese American artists and writers. I made a series of presentations at conferences and contributed articles to scholarly journals. I also translated and published a Vietnamese American writer Lan Cao's novel "The Lotus and the Storm" in Japan.

研究分野：アメリカ文学・文化

キーワード：トランスパシフィック アジア系アメリカ文化・文学 異文化空間 太平洋横断的 複合的多文化

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

(1) 本研究者は、現代アメリカ社会におけるポストモダニズム文化・文学の形成と発展をテーマに研究に取り組んできた。その結果、ヨーロッパ系白人・男性が中心となり展開した初期ポストモダニズム文化が 1970 年代後半以降多文化主義の影響から多様化の一途を辿ったこと、1990 年代以降は人種・民族的少数派がポストモダニズム文化の一翼を担ったことを明らかにした。こうした知見を土台に科研費基盤研究(C)「ポストモダニズム以降の文化研究」(平成 24-26 年度)では、アメリカ西海岸を中心にベトナム系難民が形成する新しい複合文化の展開を異文化の融合と文化翻訳をテーマに分析・研究を進めた。

(2) 以上の事例・研究成果を踏まえ、本研究では環太平洋地域において再展開するアジア系アメリカ文化の諸相と、それを軸に構築される新たな共同体がもつ文化・社会的意義を考察することにした。具体的には「トランスパシフィック」を舞台にする複合的多文化では、異なる歴史や政治的背景をもつ人々がより発展的かつ流動的な共同体を形成し、それに基づく文化を展開することが期待される。

(3) 本研究では、アメリカ社会への同化を果たしてきた新世代アジア系移民・難民が、改めてアメリカ社会から一步踏み出し、祖国の伝統文化や異文化と向き合うことで生じる文化・歴史的発見や、政治・社会的差異に起因する諸問題に焦点をあて、アジア系アメリカが創出する 21 世紀型の複合文化を研究・分析する。

2. 研究の目的

(1) 本研究の目的は、アジア系アメリカ文化・文学において、環太平洋地域で展開される複合的多文化を文化史的視点から検証することである。とくに Yunte Huang が「トランスパシフィック = 太平洋横断的」と呼ぶ地政学的時空間に注目し、異なる歴史的言説、社会・政治的思想が接触、交差、衝突する様相を分析することで、異文化融合の過程を考察する (cf. Yunte Huang, *Transpacific Imaginations: History, Literature, Counterpoetics*, 2008)。

(2) 主たる研究対象は、日系、ベトナム系を中心とする新世代アジア系移民・難民による文化・文学とする。複数の民族グループが創出する文化・文学を対象とすることで、1) 「トランスパシフィック」文化の多様性と可能性を広く検証すること、2) 異なる移民・難民文化・文学において共有される問題・課題等を浮き彫りにすることを目標にする。

(3) 注目すべきは、日系、ベトナム系と異なる文化・民族・政治的出自を持つ芸術家や批評家が、各々の視点から太平洋という「場」を多様な歴史・文化が会う異文化融合の時空間として捉え、そこに新たな創造的可能性を見出している点である。アジアから太平洋を横断しアメリカへと展開したのが初期移民・難民文化だとすれば、現在起きているのはアメリカからアジアへと新たな文化的遭遇を求める新世代移民・難民が再構築する越境・複合文化である。

(4) 本研究では太平洋横断的な「トランスパシフィック」文化の展開が、異なる歴史・政治的出自を持つ人々にとって共有可能な文化的意識を構築しうることを検証する一方で、この複合的多文化が抱える、あるいは今後抱える可能性がある文化・社会的問題点や課題を考察する。

3. 研究の方法

(1) 「トランスパシフィック」文化の特徴は、その多様性と複合性にある。すでに 1970 年代のアジア系アメリカ運動において、日系、中国系をはじめとするアジア系の活動家・芸術家によって、民族の垣根を越えた共闘と同時に、各々の民族的特徴を生かした文化展開が見られた。

(2) 本研究で対象とするトランスパシフィック文化においては、アメリカ生まれの新世代移民・難民と祖国文化が改めて会うことで、太平洋横断的な文化の(再)構築とそれに伴う多文化共同体の形成が進む。そこで本研究では、移民・難民文化の歴史を伝える各種資料の収集に加え、現在進行中の最新の文化融合の事例(文学・芸術作品、エキシビション、パフォーマンス等)を現地調査することで、トランスパシフィック文化の様相を多角的に捉え、それがアメリカ文化全体に与える影響も含め考察する。

(3) 本研究の方法は以下の 3 点に分類できる。

1) トランスパシフィック文化の社会・歴史的背景に関する文献資料を中心とする調査・研究。
主要調査施設

- ・ University of California, Berkeley, Ethnic Studies Library Asian American Studies Collection
 - ・ University of California, Irvine, Southeast Asian Archive
 - ・ University of California, Los Angeles, Asian American Studies Center
 - ・ University of California, Santa Barbara, California Ethnic and Multicultural Archive
- 主たる調査対象資料

- ・ 1960 年代後半から 1970 年代にかけてのアジア系アメリカ運動関連の資料・文献
- ・ 日系・ベトナム系を中心とする小説等出版物
- ・ ベトナム系難民に関する歴史関連資料
- 2) 現在進行する文化イベント・作品発表等の実地調査
- 3) 作家・芸術家との意見・情報交換

4. 研究成果

(1) アメリカ合衆国西岸、および東南アジアを舞台に太平洋横断的に展開する 21 世紀型のアジア系アメリカ文化・文学に関して以下のような知見を得た。

(2) A. アジア系アメリカ運動の影響：1960 年代後半から 1970 年代にかけて、ニューヨーク、サンフランシスコ、ロサンゼルスといった東西の大都市を中心に起きたアジア系アメリカ運動がトランスパシフィック文化の下地を形成したと推測される。

(3) アジア系アメリカ運動が起きたきっかけは、1950-60 年代公民権運動により政治・社会・文化的存在力を増したブラックパワーの影響を受けた日系、中国系を中心とするアジア系の若者が、それまで白人社会と黒人社会の対立の間で埋没していたアジア系の団結と自立を促そうとしたことにあった。その結果起きた民族横断的なアジア系による社会・政治・文化運動が、1980 年代以降 1990 年代の多文化主義の時代を経て、21 世紀におけるアジア系アメリカ文化による太平洋横断的な異文化との自立的接触・融合を引き起こすきっかけとなった可能性がある。

(4) アジア系アメリカ運動当時の出版物のなかで現在でも特に重要なものとしては、ニューヨークを拠点に活動した Basement Workshop が刊行した書誌 *Yellow Pearl* (1972) や隔月刊誌の *Bridge* (1971-78)、カリフォルニア州立大学ロサンゼルス校を拠点とする学生コミュニティが刊行した *Gidra* (1969-74) 等の出版物が挙げられる。

(5) また、アジア系アメリカの社会・政治的不満をすくい上げる形で、1950 年代の赤狩りを経てアメリカでは勢いを失っていた社会・共産主義思想が、ベトナム反戦運動と連携しつつ息を吹き返した点も興味深い。当時の活動家には多くの日系人が含まれており、Malcolm X と親交のあった Yuri Kochiyama やブラックパンサーとして活動したこともある Richard Aoki については、後に Diane C. Fujino による伝記が刊行されている (Cf. *Heartbeat of Struggle: The Revolutionary Practice of Yuri Kochiyama*, 2005; *Samurai among Panthers: Richard Aoki on Race, Resistance and a Paradoxical Life*, 2012)。

(6) B. ベトナム系難民の流入とリトルサイゴンの形成：全米各地に飛び地のように点在するベトナム系コミュニティ、通称リトルサイゴン。中でもアメリカ最大規模を誇るのが、カリフォルニア州ロサンゼルス郊外のウェストミンスターとガーデングローブに広がるベトナム系居住区である。近接するカリフォルニア州立大学アーバイン校には、これまで多くの難民学生が就学し、彼らが組織した学生コミュニティをはじめ、当該地域でのベトナム系の活動を記録する歴史資料が Southeast Asian Archive 等の施設に残されている。

(7) その中で本研究が重点的に調査対象としたのは、次の資料である：1) “Guide to the Vietnamese American Arts and Letters Association Collection” (MS.SEA.026); 2) “Guide to the Michael Merrifield Files on Southeast Asian Community Resettlement in Orange County” (MS.SEA.041); 3) “Guide to the Government of Free Vietnam Publicity and Organizational Materials” (MS-SEA009)。これらの調査から、難民当初のベトナム系住民がアメリカ社会へ順応していくプロセスが、文化・社会・政治の各方面から検証できた。とりわけ文化・文学が難民コミュニティの形成に果たした役割について、多くの知見を得ることになった。

(8) また、難民コミュニティで成長した 1.5 世代やアメリカ生まれの 2 世は、積極的にアメリカ文化と祖国文化の融合を試み、結果として 21 世紀型の複合的多文化の形成が進む。それがアメリカ文化全体に与える影響は限定的ではあるが、Viet Thanh Nguyen の小説 *The Sympathizer* (2015) がピューリッツァー文学賞を受賞するなど、徐々にその存在感は増している。

(9) C. 太平洋横断的複合文化の形成：ベトナム系難民が形成する新しいアジア系アメリカ文化がある一方、その文化をベトナムに帰還する難民芸術家が再度アジア的視点から再構築するという複合的な文化形成が今世紀に入り進む。その代表的存在が世界的に知られるマルチメディア作家 Dinh Q. Le である。現在はホーチミンシティにスタジオを構える Le と本研究者は、日本およびベトナムにて意見交換を続け、その結果は雑誌論文にて公表した。

(10) 簡潔にまとめれば、21 世紀型の複合文化においては、強い文化が弱い文化に影響を与えるのではなく、複数の文化がそれぞれの長所・短所を互いにぶつけ合い、折衝を繰り返しながら展開していくところに大きな特徴がある。その結果、移民・難民コミュニティは拡張し、同

時にそのコミュニティに属する作家・芸術家の作風はより多様化・複合化する。

(11) こうした傾向は、日系3世作家 Ruth Ozeki の小説 *A Tale for the Time Being* (2013) にも見られ、それについては雑誌論文にて報告した。これまでの主たる著作では日系人女性の視点からアメリカ社会・文化を批判的に描いてきた Ozeki だが、2011年東日本大震災以降の日本社会を描く本作品においては、伝統的な日本文化や歴史との対話から新たな文化・芸術の創造と展開を試みる。21世紀型の複合的多文化では、伝統文化の再発見と再消費、さらに新旧文化の衝突からより多様な文化の形成が行われる。

(12) 以上、本研究において得られた知見は、移民・難民コミュニティにおける新しい文化・芸術の形成に関する考察という当初の研究課題・目的に加え、現在新たに展開する批判的難民学研究等との関連も深く、21世紀型の知の地平線をさらに拡張していく可能性をもつ。そのため現在遂行中の科研費基盤研究(C)「太平洋横断的ヴェトナム系アメリカ文化研究の構築にむけて―難民文化の再越境と変容」(2018年-20年)においては、ヴェトナム系難民コミュニティの形成とそこにおいて展開される地域横断型の文化が、難民文化研究のモデルとして機能するかを検証すべく研究中である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 4件)

麻生 享志、"Ethics of the Transpacific: Dinh Q. Le, San Art, and Memories of War" *The Japanese Journal of American Studies* 査読有 No. 28 (2017)、3-23

麻生 享志、「ヴェトナム系アメリカ文学とポストモダンの交差点--戦後(ポスト)「ヴェトナム」という記憶」*AALA Journal* 査読有 No.22 (2016)、17-28

麻生 享志、「1.5世代から2世代へ ヴェトナム系アメリカ文化の現在」*Waseda Global Forum* 査読有 No. 13 (2016)、9-24

麻生 享志、「異文化空間としてのトランスパシフィックールース・オゼキ『あるときの物語』における多世界構造について」*AALA Journal* 査読有 No. 21 (2015)、49-58

〔学会発表〕(計 3件)

麻生 享志、"The Theater and the Theatrical: Reconsidering American Drama" in the Age of Trump、アメリカ学会第51回年次大会、2017年6月3日、於・早稲田大学、招待発表

麻生 享志、「自伝(的)文学と人種・エスニシティ、フィクションとノンフィクションをつなぐ」第89回日本英文学会、2017年5月21日、於・静岡大学、招待発表

麻生 享志、「ヴェトナム系アメリカ文学とポストモダンの交差点 戦後「ヴェトナム」という記憶」アジア系アメリカ文学研究会第24回年次フォーラム、2016年9月24日、於・神戸大学、招待発表

〔図書〕(計 1件)

麻生 享志、彩流社、『蓮と嵐』、原作・ラン・カオ 2016、479

〔産業財産権〕

出願状況(計 0件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年:

国内外の別:

取得状況(計 0件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

取得年:

国内外の別:

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究分担者

研究分担者氏名：なし

ローマ字氏名：

所属研究機関名：

部局名：

職名：

研究者番号（8桁）：

(2) 研究協力者

研究協力者氏名：なし

ローマ字氏名：

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。